

栽培実証において補助対象となる国内資源由来肥料の上限量算出表の作成について

(1) 栽培実証において補助対象となる国内資源由来肥料の上限量について

本事業は海外からの輸入原料に依存した肥料からの転換を図る取組を支援しているため、補助対象となる国内資源由来肥料の量は、栽培実証を行う場において散布していた海外からの輸入原料に依存した肥料の成分（窒素（N）、りん酸（P）、カリ（K））の代替となる国内資源由来肥料量を上限としております。また、基準年に使用していた肥料が国内資源由来肥料であっても、それよりも国内資源由来の肥料成分（N・P・K）の割合が高い肥料に転換するための栽培実証については、国内資源由来の肥料成分が増加していることを定量的に説明できる場合に限り、補助対象となります（QA II -C-b10）。

なお、本事業における国内資源由来肥料とは、家畜排せつ物や下水汚泥資源、食品残渣、肉骨粉などの国内に存在する資源を原料とした肥料を指し、混合堆肥複合肥料のように、堆肥（国内資源由来）と化学肥料（輸入原料由来）を混合した肥料についても事業の対象となります（QA II -A-1）。

【栽培実証において、補助対象となる国内資源由来肥料のイメージ図】



(2) 栽培実証において補助対象となる国内資源由来肥料量の算出に当たっての留意事項

補助対象となる国内資源由来肥料の上限量については、「栽培実証において補助対象となる国内資源由来肥料の上限量算出表」（以下、「補助上限量算出表」）の青色のセルに国内資源由来肥料などのデータを入力することで算定でき、国内資源由来肥料の購入量が上限内にあるのか否かが判定されます。

なお、補助上限量算出表に記載できる肥料銘柄の数に限りがありますので、**実証者、実証品目、実証肥料の種類、散布用途（元肥として散布するのか、追肥として散布するのか）毎に表を分けて作成**してください（下図参照）。

補助上限量算出表で算定された国内資源由来肥料の上限量は、限度いっぱいまで肥料の購入を推奨するものではありません。ほ場の状態や気象条件等を考慮し、適切な量の肥料を施用してください。

【補助上限量算出表の作成単位の考え方】

ほ場① (10a) 【実証者：A氏、実証品目：キャベツ】 【輸入原料に依存した肥料】 (元肥) ①化成A : ○袋、②化成B : △袋 【国内資源由来肥料】 (元肥) 国内資源由来肥料A	ほ場③ (10a) 【実証者：A氏、実証品目：キャベツ】 【輸入原料に依存した肥料】 (元肥) ①化成C : □袋、②化成D : ×袋 【国内資源由来肥料】 (元肥) 国内資源由来肥料A
ほ場② (10a) 【実証者：B氏、実証品目：キャベツ】 【輸入原料に依存した肥料】 (元肥) ①化成A : ○袋、②化成B : □袋 (追肥) ③化成A : ○袋 【国内資源由来肥料】 (追肥) 国内資源由来肥料A	ほ場④ (10a) 【実証者：B氏、実証品目：ハクサイ】 【輸入原料に依存した肥料】 (元肥) ①化成A : ○袋、②化成D : ×袋 【国内資源由来肥料】 (元肥) 国内資源由来肥料A

上記の場合、補助上限量算出表は、次の考え方で整理する。

- (1) ほ場①及びほ場③では、実証者、実証品目、実証肥料の種類、散布用途が同一であることから、ほ場①とほ場③で1つの補助上限量算出表を作成。
- (2) ほ場②では、実証品目・実証肥料の種類は、ほ場①及びほ場③と同一だが、実証者・散布用途が異なることから、ほ場②で1つの補助上限量算出表を作成。
- (3) ほ場④では、実証肥料の種類・散布用途は、ほ場①及びほ場③と同一だが、実証者・実証品目が異なることから、ほ場④で1つの補助上限量算出表を作成。

栽培実証において補助対象となる国内資源由来肥料の上限量算出表（記入シート）

注) 青色セルに必要事項を記入してください。なお、本シートは、資材購入者、実証品目ごとに作成する必要があります。

1. 基本情報

項目		説明					
資材購入者名	○○生産組合 農林太郎	事業実施計画書別紙4の(1)欄で整理した資材購入者名を記入。					
実証場整理番号	1~40	事業実施計画書別紙4の(6)欄で整理した整理番号を記入。					
対象場面積(ha)	6.90	事業実施計画書別紙4の(7)欄で整理した実証面積を基に記入。					
実証品目・散布用途	トウモロコシ・元肥	事業実施計画書別紙4の(8)及び(21)欄で整理した実証品目及び散布用途を記入。					

肥料の区分を選択してください。	肥料に含まれる国内資源由来成分量(%)を入力してください。	製品の単品重量を入力してください。	基準年度と事業年度における、製品の施用量を入力してください。
-----------------	-------------------------------	-------------------	--------------------------------

2. 補助対象となる肥料成分の上限量の算定

(1) 基準年度に施用した肥料の、肥料成分量、単品重量及び施用量（基準年度・事業年度）を入力します。

肥料の名称	肥料の区分	全肥料成分量 ① (%)			国内資源由来 ② 肥料成分量 (%)			単品重量(kg/袋) ③	施用量(袋)	
		N	P	K	N	P	K		基準年度 ④	事業年度 ⑤
化成A	輸入原料に依存した肥料	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	20	A 750	D 500
化成B	輸入原料に依存した肥料	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	20	B 310	0
国内肥料AA	国内資源由来肥料	5.0	4.0	3.0	3.0	1.0	2.0	20	C 1000	E 500

(2) 代替される肥料成分の施用量を求め、補助対象となる肥料成分の上限量を算出します。

肥料の名称	(基準年度) 肥料成分の施用量(kg) ⑥ = ③ × ④ × ①			(事業年度) 肥料成分の施用量(kg) ⑦ = ③ × ⑤ × ①			肥料成分の総合計(kg) 基準年度 ⑥	肥料成分の総合計(kg) 事業年度 ⑦	上限量(kg) ⑧ = ⑥ - ⑦
	N	P	K	N	P	K			
	A 1500	1500	1500	D 1000	1000	1000			
化成A	1500	1500	1500	D 1000	1000	1000			
化成B	B 496	496	496						
国内肥料AA	C 1000	800	600	E 500	400	300			
各肥料成分の合計	2996	2796	2596	1500	1400	1300			

肥料に含まれる国内資源由来成分量(%)を入力してください。

肥料成分の肥効率を入力してください
(次ページに説明があります。)。

3. 栽培実証で施用する国内資源由来肥料の肥料成分量の算定

肥料成分量及び肥効率を入力し、肥効率を考慮した肥料成分量を算定します。

国内資源由来肥料の名称	全肥料成分量 (%) ⑨			国内資源由來の肥料成分			肥料成分量 (%) ⑫ = ⑩ × ⑪ + (⑨ - ⑩)		
	成分量 (%) ⑩			肥効率 (%) ⑪					
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
国内肥料SS	8.0	6.0	8.0	5.0	3.0	4.0	50	100	65
特製もろこし配合	9.0	9.0	7.0	6.0	5.0	5.0	40	80	80

4. 栽培実証で施用する国内資源由来肥料の購入量が上限内にあることの確認

単品重量と購入量を入力し、購入量が補助対象の上限内にあることを確認します。

国内資源由来肥料の名称	単品重量(kg/袋) ⑬	購入量(袋) ⑭	肥料成分量(kg) ⑯ = ⑯ × ⑭ × ⑬				国内資源原料割合
			N	P	K	合計	
国内肥料SS	20	G 545	600	654	719	1973	○
特製もろこし配合	20	H 570	616	912	684	2212	○
合計		I 1115	1215	1566	1403	4185	

「×」が付いた肥料は、基準年度に用いた国内資源由来肥料より、国内資源由來の肥料成分の割合が低いため、補助の対象にななりません。

判定	適合
	上限内です

「不適合」と表示された場合、肥料成分量が上限を超過しています。超過分は補助の対象外です。

注：四捨五入の関係から、表示された値から推測された結果と異なる判定が示される場合があります。

製品の単品重量を入力してください。

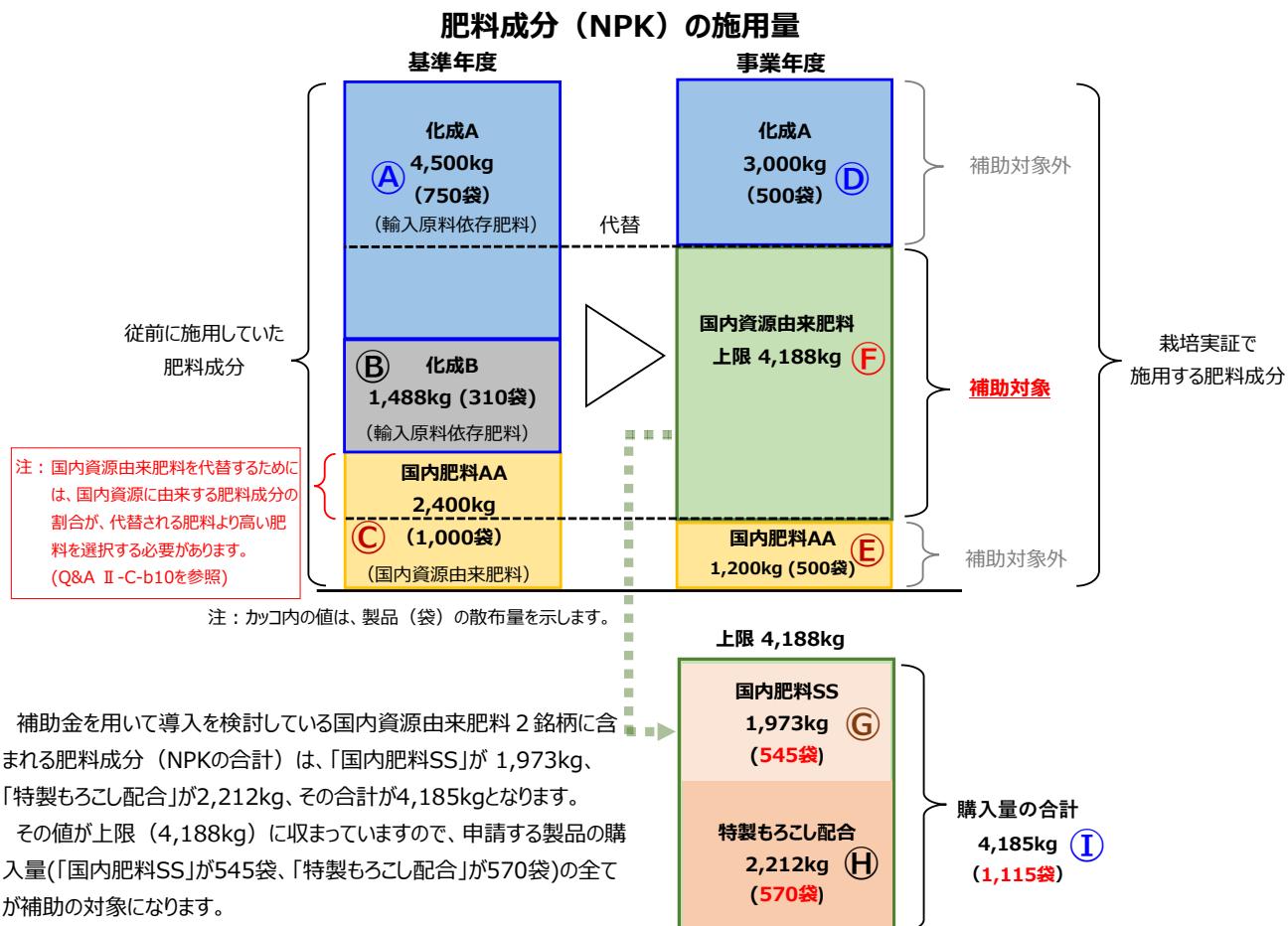
導入を検討している国内資源由來肥料の製品購入量を入力してください。

(概念図) 補助対象となる国内資源由来肥料の上限量の算定

本事業では、代替する肥料に含まれる肥料成分（N・P・K）の合計量を上限としています。

以下に示した事例は、基準年度において施用していた、「化成A」、「国内肥料AA」の施用量を削減とともに、「化成B」を全廃し、その代替として国内資源由来肥料2銘柄を導入することを想定したものです。

「化成A」を250袋、「国内肥料AA」を500袋を減量、「化成B」を全廃することで、施用する肥料成分のうち、「N:1,496kg, P:1,396kg, K:1,296kg」分が減少しますが、この減少量の合計「NPK:4,188kg」が、補助対象となる国内資源由来肥料に含まれる肥料成分の上限となります。



(解説) 国内資源に由来する肥料成分の肥効率について

肥効率とは、化学肥料養分の利用率を100%としたときの有機質養分の利用率のことです。

堆肥等の有機質肥料は、肥料中の養分が作物に吸収されにくい形で存在していることが多く、徐々に作物に吸収されやすい形に変化し養分が吸収されます。このように、化学肥料と異なる養分吸収特性を示すため、肥効率を考慮した施肥設計が必要となります。

●補助対象となる国内資源由来肥料の上限量を算出するに当たり使用する肥効率について

上限量算出表の作成に当たって使用する国内資源由来肥料の肥効率については、表に示した肥効率を参考にして、妥当だと考えられる値を記入してください。

なお、購入する肥料の肥効率が明らかにされている場合は、その肥効率を記入してください。

肥効率のめやす

肥料の種類	肥効率(%)		
	N	P	K
稻わら堆肥	10~20	50~100	65~90
牛ふん堆肥	10~20	60~100	65~90
豚ぶん堆肥	20~40	60~100	65~90
鶏ふん堆肥	30~60	60~100	90
バーカ堆肥	10~20	50~100	65~70
もみがら堆肥	10	50	80

肥料の種類	肥効率(%)		
	N	P	K
魚かす	80	80	80
なたね油かす	80	80	80
大豆油かす	80	80	80
米ぬか	70	80	80
有機配合肥料	80	80	80

注：上記の「肥効率のめやす」は、肥料関係の文献に掲載されている肥効率をまとめたものです。

これらの肥料は運用することで肥効率が上昇していきますが、対象ほ場での施用実績がない肥料を購入することになるため、運用しない場合のデータを掲載しています。